

「teamLab Planets 水に入るミュージアムの探検」

2020年10月30日実施 JGA 第一支部研修 終了レポート

好評だった8月実施の「teamLab Borderless」に続き、10月30日(金)12:00~13:45、「teamLab Planets 水に入るミュージアムの探検」研修を実施いたしました。

穏やかに晴れた秋の日、研修担当運営委員1名を含め38名のJGA会員が集いました。何と京都、大阪、兵庫からのご参加もあり、会員の皆様のチームラボへの関心の高さが窺われました。

研修開始のご挨拶の後、3グループに分かれ、それぞれチームラボカタリスト(※)の方のご案内で展示を觀賞しました。前回のボーダレス会場とは規模が随分と異なりますが、



プラネッツはチームラボの「Body Immersive」というコンセプトが、より明確に打ち出されている印象です。HPサイトには、「超巨大な作品に、人々は、他者と共に身体ごと没入し、作品と一体となる。そして、身体と作品との境界のない体験によって、自分と世界との間にある境界の認識を揺るがし、私たちと世界との連続的な新しい認識を模索する。はだしとなって、超巨大な作品に、他者と共に、身体ごと、圧倒的に没入していく。」とありますが、カタリストの解説によって、各作品でいかにこの「Body Immersive」を体験できるか、参加者各自が実感しました。

また、日本発のデジタルアートが来日客を惹きつける理由の一つとして、日本美術の影響も受け、二次元と三次元を意識して制作しているとの説明に、参加者一同ナルホド、と大いに納得。



プラネッツは一方通行で迷う心配はなく、作品数も絞られていて、その分、一作品をじっくりと觀賞できます。滞在時間も調整しやすいです。豊洲市場、豊洲駅や豊洲ららぽーとも徒歩圏内、都心とのアクセスが良いのも魅力です。インバウンド回復の暁には、特にFIT向けに便利な施設と思われました。

カタリストはプラネッツのコンセプト、各作品の鑑賞のツボ、さらにチームラボについて、参加者からの質問に的確かつ丁寧にお答えくださいました。今まで食わず嫌いだっただ、という参加者も「研修をきっかけに訪れてみて良かった、評価が変わった」とのこと。「素晴らしかった」「参加して本当に良かった」「面白かった」など、参加者は皆様ご満足、チームラボのデジタルアートの世界に魅了されたご様子でした。



※カタリスト：チームラボが進めている様々なプロジェクトにおいて、クオリティの高いモノを作るために、エンジニアやデザイナーたちが力を発揮できるよう、ハブとなり、チームを導いていく、プロデューサー的ポジションを務める方。

※現在、接触の危険を減らす為、「やわらかいブラックホール」は展示中止中。